

**試薬ビジネスのさらなる拡大に向けて、創薬支援業務や検査業務の受託サービスを強化  
「富士フィルム和光バイオソリューションズ」を設立**2019年2月18日  
富士フィルム和光純薬

富士フィルム和光純薬株式会社(社長:白木 一夫)は、試薬ビジネスのさらなる拡大を図るため、創薬支援業務や検査業務の受託サービスを行う富士フィルム和光バイオソリューションズ株式会社(以下 富士フィルム和光バイオ)を、本日設立しました。尚、富士フィルム和光バイオでの受託サービスの開始は、今春を予定しています。

当社は、総合試薬メーカーとして、最先端分野の研究ニーズに応えるため、有機合成や環境分析などに使用するケミカル試薬や、創薬研究などに用いるライフサイエンス試薬を幅広くラインアップし、企業やアカデミアに提供してきました。また、試薬ビジネスの拡大に向けて、試薬開発で培った技術・ノウハウや自社試薬を用いて、がんなどさまざまな疾患に関与することが知られている「エクソソーム」の単離サービス<sup>※1</sup>などの創薬支援業務、医療機器や飲料・食品などに含まれるエンドトキシン<sup>※2</sup>の有無を確認する毒素検査業務を受託するサービスを展開しています。2018年4月には、「バイオ受託ソリューション推進室」を設置し、受託ビジネスの推進体制を強化しています。

今回設立した富士フィルム和光バイオは、創薬支援業務や検査業務の受託サービスを専門に行う会社です。顧客ニーズに合ったサービスを迅速に開発・提供していくことで、受託ビジネスのより一層の成長を図っています。尚、受託サービスの営業活動については、従来通り当社が担います。

また、富士フィルム和光バイオは、これまでの受託サービスに加え、公立大学法人 福島県立医科大学の「医療-産業トランスレーショナルリサーチセンター(以下、TRC)<sup>※3</sup>」が開発した抗がん剤評価サービスも提供していきます。従来試験管評価で使用されてきたがん細胞は、培養することが困難なため、不死化<sup>※4</sup>などの処理を施していました。その結果、がん細胞の性質が変化してしまうことから、ヒト臨床評価との相関性に課題がありました。一方、本サービスで使用するがん細胞は、元のがん細胞の性質を保持できる特殊培養を用いているため、ヒト臨床評価と相関性の高いデータを獲得することが可能で、抗がん剤の原薬の薬効を評価するツールとして非常に注目されています。

今後、当社は、富士フィルム和光バイオを通じた、受託サービスの展開や TRC との技術連携強化などにより、受託ビジネスのさらなる拡大を図り、試薬の事業成長を実現していきます。

当社は、現在、試薬のみならず、化成品や臨床検査薬の領域で事業展開しています。今後も、当社の企業活動のベースとなる「次の科学のチカラとなり、人々の幸せの源を創造する」という理念のもと、顧客ニーズに応える高機能・高品質な製品を開発・提供し、学術研究、産業、医療の幅広い分野の発展に貢献していきます。

- ※1 「エクソソーム」は、すべての細胞から放出される、50~150 ナノメートルほどの微粒子で、核酸やタンパク質などを内包している。「エクソソーム」の単離サービスは、磁力を使って高純度にエクソソームを単離する当社独自技術を用いたサービス。高純度に単離することで、エクソソームの内包物をより詳細に分析することができるため、新たな治療法や診断法の開発に繋がると期待されている。
- ※2 エンドトキシンは環境中のどこにも存在する代表的な発熱性物質で、生体内に混入すると極めて微量でも発熱を引き起こすことから、体内に入る物の品質管理に用いられている。当社の独自技術によって、エンドトキシンを高感度に検出することが可能。
- ※3 福島県の震災復興プロジェクトの一つである「福島医薬品関連産業支援拠点化事業」を推進するために、2012年に設立されたセンター。
- ※4 細胞増殖を抑制するメカニズムに関与しているタンパク質の働きを抑制すること。

**【新会社の概要】**

会社名	富士フィルム和光バイオソリューションズ株式会社
本社所在地	福島県福島市光が丘1番地(公立大学法人 福島県立医科大学内)
設立日	2019年2月18日
代表者	藤原 淑記
資本金	50百万円
株主構成	富士フィルム和光純薬株式会社(100%)
主な事業内容	創薬支援業務や検査業務の受託サービス

本件に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

富士フィルム和光純薬株式会社 経営企画部

TEL 06-6203-1590